SONG for you!

Business Report

平成21年4月1日～平成22年3月31日

第145期

塩野義製薬株式会社

シオノギの基本方針（1957年制定）

シオノギの目的

シオノギは、常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する。

そのために

益々よい薬を創り出さねばならない。
益々よい薬を造らねばならない。
益々よい薬を益々多くの人々に知らせ、使って貰わねばならない。
創り、造り、売ることを益々経済的にやりとげねばならない。

そのために

シオノギの人々のあらゆる技術が日々休むことなく向上せねばならない。
シオノギの人々が、人間として日々休むことなく向上しなければならない。

その結果

シオノギの人々は日々の仕事と生活に益々生甲斐を覚える。
シオノギの人々の生活の仕方が益々改善せられる。
シオノギの人々の生活が益々豊かになる。

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第145期（2009年度）の事業概況をご報告申し上げるにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご支援、ご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

本年度は、2005年度から開始した第2次中期経営計画の最終年度であり、この5年間で、多くの成果をあげることができました。まず、研究開発では、目標の5品目を上回る7品目を第Ⅱ相臨床試験に進めることができ、

代表取締役会長
塩野元三

代表取締役社長
手代木功

国内営業では、11品目の新製品を発売しました。さらには最重要品目と位置づけている高コレステロール血症治療薬「クレストール」を国内売上のトップ製品に成長させることができました。また、今後の成長に向けたグローバル化への取り組みにつきましても、2008年に買収したSciele Pharma, Inc.を今年1月にShionogi Pharma, Inc.に社名変更し、シオノギグループとしての一体感を向上させ、米国市場での「シオノギ」のプレゼンス拡大に取り組んでいます。なお、武州製薬㈱につきましては、同社の今後の発展およびシオノギグループにおける医療用医薬品事業への経営資源の集中の観点から、本年3月にグループ外へ売却いたしました。

当期の業績は、国内における「クレストール」や高血圧症治療薬「イルベタン」の販売拡大および新製品の寄与、さらにはアストラゼネカ社に導出している「クレストール」のロイヤリティー収入の継続的な拡大などにより、前期に比べ増収増益となりました。しかし、季節的な要因による抗生物質、抗アレルギー薬の売上の減少や、承認申請費用の前倒しなどによる販売費・一般管理費の増加により、売上高、営業利益、経常利益とも当初の計画を達成するには至りませんでした。

こうした第2次中期経営計画で得られた成果および課題を踏まえ、当社では第3次中期経営計画を策定し、本年4月から新たな5ヵ年をスタートさせました。本計画は、今後のさらなる成長と長期的な発展を目指すための道筋であり、誰もが成長を実感できる新たなステージへ向けまして、当社ではさまざまな改革に取り組んでまいります。

特に次期は、本年4月に実施された薬価制度改革および業界平均6.5%の薬価改定の影響により、販売環境はより厳しさを増しますが、戦略品目の販売拡大、ロイヤリティー収入の増加等による売上の拡大や、原価、販売管理費などのコスト管理を徹底することによりまして、さらなる増収増益を目指します。

当期の期末配当金は1株当たり18円を実施させていただきます。これによりまして、中間配当金とあわせた年間の配当は1株当たり36円で、前期に比べ8円の増配となります。

配当を中心とした株主還元につきましては、今後も業績の拡大とともに安定的に向上させていく所存です。

株主の皆さまには、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当期の概況

当社グループは、医療用医薬品事業を核として長期的な成長を遂げるための胎動期間と位置づけた第2次中期経営計画（2005年度～2009年度）に全力で取り組んでまいりました。その最終年度となりました当期の概況につきまして、ご報告申し上げます。

◆経営成績（連結）

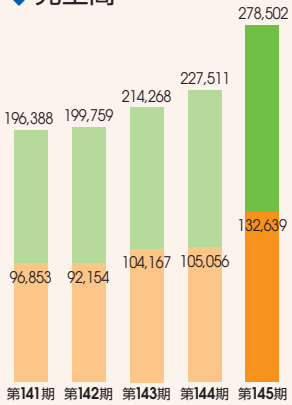
	平成21年度実績（億円）	平成20年度実績（億円）	対前期増減率（%）
売上高	**2,785**	2,275	22.4
営業利益	**524**	320	63.8
経常利益	**505**	320	57.9
当期純利益	**386**	156	146.6

当期の業績は、主力の「クレストール」「イルベタン」が大きく伸長しましたが、冬場における例年以上の市場の縮小の影響により抗生物質などが減少し、医療用医薬品全体の売上は前期に比べ微減となりました。一方、「クレストール」のロイヤリティー収入が大きく増加したほか、シオノギファーマ社の売上が年間で寄与したこともあり、全体の売上高は2,785億2百万円で前期に比べ22.4%の増加となりました。

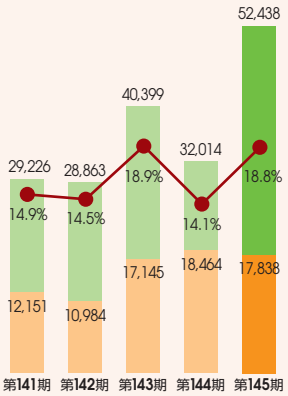
利益面におきましては、ロイヤリティー収入の増加やシオノギファーマ社の寄与により売上総利益は前期に比べ29.2%拡大しました。また、前期の販売費及び一般管理費に企業結合による仕掛研究開発費96億6千9百万円が含まれていたことにより、営業利益は前期に比べ63.8%増の524億3千8百万円、経常利益も57.9%増の505億2千2百万円となりました。また、当期純利益は、武州製薬㈱の売却益などの特別利益が発生したため、146.6%増の386億2千5百万円となりました。

連結財務指標

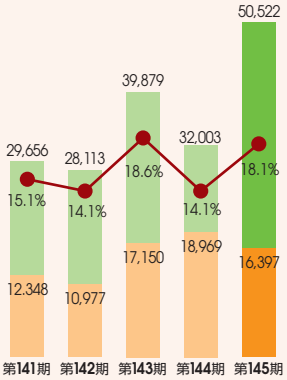
◆売上高



◆営業利益

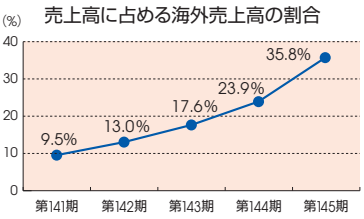


◆経常利益



◆第2次中期経営計画の総括

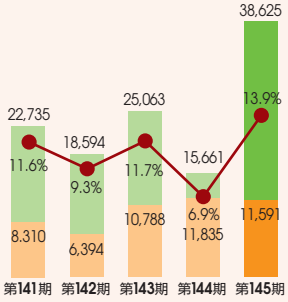
第2次中期経営計画では、「世界に通用する開発パイプラインの充実」「クレストールの成長」ならびに「グローバルな事業展開に向けた米国販売網の獲得」など、着実な成果をあげることができました。

目標	達成状況	
研究開発の活発化 (5品目以上をフェーズⅡ以降に)	●フェーズⅡ以降に7品目を移行 ●感染症に加え、代謝性疾患および疼痛の2領域を強化 ●積極的なアライアンスの構築	
国内市場で新製品10品目の上市	●国内で11品目の上市達成	
クレストールの最大化	●国内売上高242億円の主力製品に成長 ●ロイヤリティーの拡大	
着実な海外展開	●サイエルファーマ社(現シオノギファーマ社)買収による米国販売網の獲得 ●欧米亜における抗菌薬輸出の拡大	

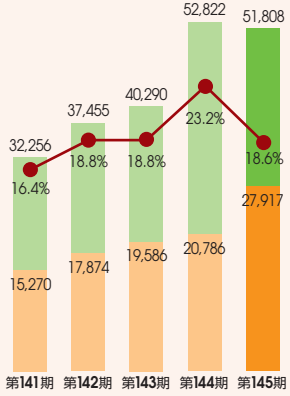
第2次中期経営計画の最終年度としての当期は、増収増益を果たしましたが数値目標には至らず、課題を残す結果となりました。また国内では、2010年度の薬価改定で「新薬創出・適応外薬解消等促進加算」が試行的に導入され、米国においても医療保険制度改革の成立により、今後様々な影響が出てくるものと思われます。

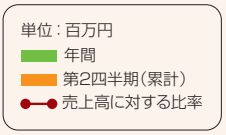
こうした状況の中、第2次中期経営計画で得られた成果および課題を踏まえ、第3次中期経営計画を策定し、4月より中長期的な成長を目指した新たな取り組みを開始しております。

◆当期純利益



◆研究開発費





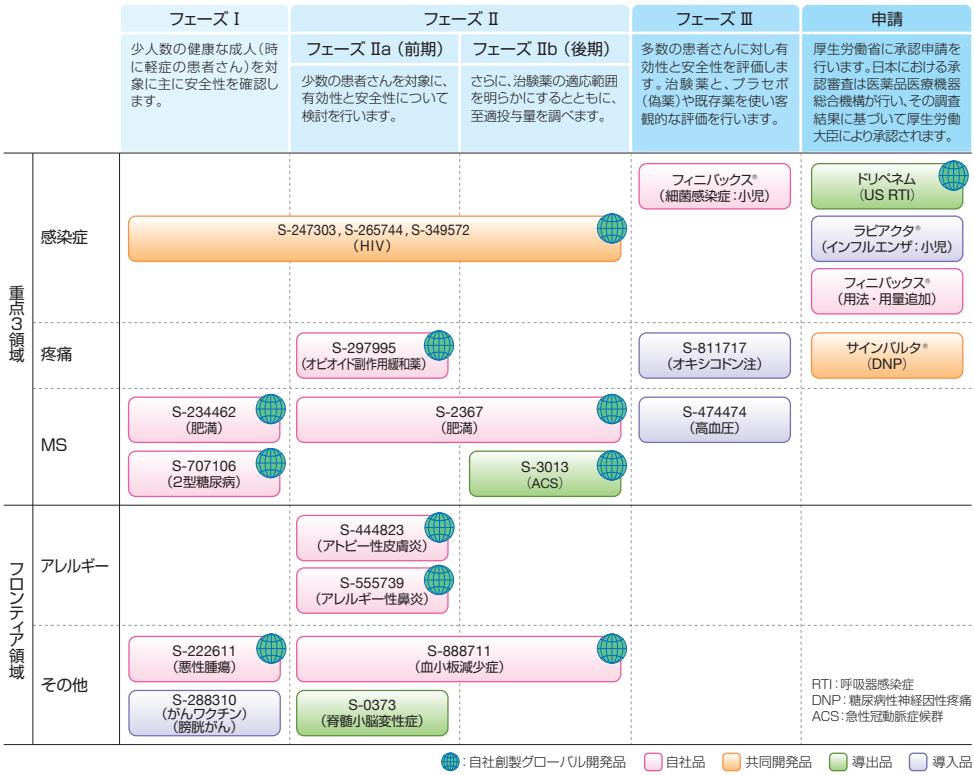
研究開発の状況

国内では、抗インフルエンザウイルス剤「ラピアクタ」の製造販売承認を本年1月に取得し、同月発売いたしました。また、抗うつ薬「サインバルタ」につきましても、本年1月に製造販売承認を取得し、4月に発売しました。さらに、カルバペネム系抗生物質「フィニバックス」の用法・用量の追加申請を今年3月に行いました。

海外では、抗HIV薬、肥満症治療薬、血小板減少症治療薬、アトピー性皮膚炎治療薬などの開発が引き続き順調に進捗しており、また、高血圧症治療薬と2型糖尿病治療薬が新たに加わりました。

こうした活動の結果、当期におけるグループ全体の研究開発費は518億8百万円で、売上に対する比率は18.6%となりました。

◆新薬開発状況 (平成22年5月現在)



◆シオノギファーマのパイプラインの状況 (平成22年5月現在)

一般名	適応	フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	申請	上市
Prenate DHA®	妊婦用ビタミン	(ビタミン，ミネラル，DHA，メタフォリン)				2009年4月発売
Ulesfia™	頭じらみ	(ベンジルアルコール)				2009年7月発売
Adrenaclick™	アナフィラキシー	(自己注射用エピネフリン)				2010年1月発売
Prenate® Essential™	妊婦用ビタミン	(ビタミン，ミネラル，DHA，メタフォリン，ビオチン，ヨード)				2010年4月発売
Glycopyrrolate	流涎症	(グリコピロレート)			2009年9月申請	
Clonidine HCL	ADHD	(塩酸クロニジン)			2009年10月申請	
Pravastatin/Fenofibrate	脂質異常症	(プラバスタチン / フェノフィブラート)			2009年11月申請	
Jenloga XR	高血圧	(塩酸クロニジン)		Ph Ⅲ 終了		
PSD502	早漏	(リドカイン / プリロカイン)		Ph Ⅲ 終了		
Ospemifene	閉経後膣萎縮症	(オスペミフェン)		Ph Ⅲ 終了		
ADX415	高血圧	(選択的α2受容体アゴニスト)				

循環・代謝　小児　婦人科

新製品

■医療用医薬品

2010年1月 発売

ラピアクタ®
点滴用バッグ300mg
ラピアクタ®
点滴用バイアル150mg
抗インフルエンザウイルス剤

2010年4月 発売

サインバルタ®
カプセル20mg、30mg
抗うつ薬

■診断薬

2010年3月 発売

クイック チェイサー®
Flu A,B
インフルエンザウイルス
迅速診断キット

■OTC医薬品

2009年12月 発売

ローカスタ®
血清高コレステロール
改善薬

2010年2月 発売

パイロン®MX
麻黄湯エキス配合
総合かぜ薬

2010年3月 発売

ポポン®ピュメリ錠VB
ビタミンB1主薬製剤
ポポン®ピュメリ目薬R
眼科用薬

決算の概要

連結損益計算書

科　目	当連結会計年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日) 金　額 (百万円)	前連結会計年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日) 金　額 (百万円)
売上高	278,502	227,511
売上原価	76,263	70,928
売上総利益	202,239	156,582
販売費及び一般管理費	149,801	124,568
（うち研究開発費）	(51,808)	(52,822)
営業利益	52,438	32,014
営業外収益	2,579	3,343
営業外費用	4,494	3,354
経常利益	50,522	32,003
特別利益	10,251	213
特別損失	2,233	1,430
税金等調整前当期純利益	58,540	30,785
法人税、住民税及び事業税	21,145	14,717
法人税等調整額	△ 1,246	369
少数株主利益	15	37
当期純利益	38,625	15,661

売上高は、国内市場における「クレストール」「イルベタン」の拡大および外用尋常性ざ瘡治療剤「ディフェリン」、特発性肺線維症治療薬「ピレスパ」などの寄与、アストラゼネカ社による「クレストール」の海外での販売拡大によるロイヤリティー収入の増加、シオノギファーマ社（旧サイエルファーマ社）の売上が年間で寄与したことなどから、前期に比べ22.4%の増加となりました。

利益面では、ロイヤリティー収入の増加やシオノギファーマ社の寄与により売上総利益は前期に比べ29.2%と拡大しました。また、前期の販売費及び一般管理費に企業結合による仕掛研究開発費96億6千9百万円を含んでおりましたので、営業利益は前期に比べて63.8%の増、経常利益も57.9%の増となりました。さらに、当期純利益につきましても、武州製薬㈱の売却益などの特別利益が発生したため、前期に比べ146.6%増となりました。

連結貸借対照表

科　目	当連結会計年度 (平成22年3月31日) 金　額 (百万円)	前連結会計年度 (平成21年3月31日) 金　額 (百万円)
【資産の部】		
流動資産	250,664	202,724
固定資産	290,097	299,128
有形固定資産	62,447	71,811
無形固定資産	119,065	120,388
投資その他の資産	108,584	106,928
資産合計	540,761	501,852
【負債の部】		
流動負債	66,829	76,804
固定負債	131,955	114,954
負債合計	198,785	191,759
【純資産の部】		
株主資本	354,443	326,616
資本金	21,279	21,279
資本剰余金	20,227	20,227
利益剰余金	332,669	304,761
自己株式	△ 19,733	△ 19,652
評価・換算差額等	△ 12,939	△ 16,980
その他有価証券評価差額金	10,362	8,207
為替換算調整勘定	△ 23,301	△ 25,188
少数株主持分	471	458
純資産合計	341,976	310,093
負債純資産合計	540,761	501,852

当期末の総資産が前期末に比べ389億8百万円増加している主な要因は、利益増に加え、連結子会社である武州製薬㈱の売却により、現金及び有価証券が増加したことによるものです。

負債に関しましては、昨年6月に国内普通社債300億円を調達し、短期及び長期の借入金240億円の返済にあてました。

また、純資産の増加は、利益増によるものと株価の上昇による「その他有価証券評価差額金」の増と円安による「為替換算調整勘定」の影響によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書

科　目	当連結会計年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日) 金　額 (百万円)	前連結会計年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日) 金　額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	**52,901**	**29,120**
税金等調整前当期純利益	58,540	30,785
減価償却費	18,047	13,468
のれん償却額	3,730	906
資産・負債増減等	△ 13,679	△ 3,509
法人税等の支払額	△ 13,737	△ 12,531
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△ 826**	**△149,055**
定期預金の払戻・預入	△ 196	△ 138
有形固定資産の取得・売却	△ 13,106	△ 11,138
投資有価証券等の取得・売却	2,011	14,840
貸付金の回収による収入	9,602	3
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 2,506	△146,766
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	8,092	—
その他	△ 4,723	△ 5,856
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△ 4,978**	**105,293**
配当金の支払額	△ 10,701	△ 8,701
借入・返済	△ 24,043	114,253
社債の発行による収入	30,000	—
その他	△ 233	△ 258
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△ 969**	**△ 1,430**
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	**46,127**	**△16,073**
現金及び現金同等物の期首残高	**51,536**	**67,609**
現金及び現金同等物の期末残高	**97,663**	**51,536**

当期の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前当期純利益が前期より大幅に増加したことなどにより、前期比237億8千1百万円増の529億1百万円のプラスとなりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、設備投資などの支出の一方、武州製薬㈱の売却による収入などがあり、8億2千6百万円のマイナスとなりました。

また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、社債発行による調達の一方、借入金の返済、配当の支払いなどにより、49億7千8百万円のマイナスとなりました。

この結果、当期末の「現金及び現金同等物の期末残高」は、前期末に比べ461億2千7百万円多い976億6千3百万円となりました。

次期の見通し

平成22年4月に業界平均6.5%の薬価改定が実施されるなど、国内医療用医薬品市場はより一層厳しい環境に推移するものと予想されますが、「クレストール」「イルベタン」を中心とした戦略品目の販売拡大が薬価改定による減収分を吸収することにより、増加を見込んでおります。また、武州製薬㈱の売却による減収の影響はあるものの、ロイヤリティー収入の増加が引き続き期待されることから、全体としましても増収を見込んでおります。なお、シオノギファーマ社を中心とする米国子会社の決算期を12月から3月に変更するため平成23年3月期は15ヶ月決算となり、これによる売上高の影響は約100億円の増を見込んでおります。

利益面では、ロイヤリティー収入の増加および原価率の低い米国での売上増に加え、原価や販管費などコスト管理の徹底を図り、研究開発費の増加を吸収することにより、営業利益、経常利益は増益を見込んでおります。一方で、当期純利益につきましては、平成22年3月期に特別利益の発生があったため、横ばいを見込んでおります。なお、決算期変更に伴う利益面への影響はないと予想しております。

◆次期の見通し

連結		
売上高	2,950億円	（前期比 5.9%増）
営業利益	610億円	（前期比 16.3%増）
経常利益	590億円	（前期比 16.8%増）
当期純利益	390億円	（前期比 1.0%増）

※米国子会社は決算期変更により15ヶ月決算になっております。

利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、中長期的な視点での企業価値の増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましては、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指しております。

今後の業績に対する配分の指標となる配当性向につきましては、35%（連結配当性向）とすることを目標としております。

◆配当金

1株当たり配当金			
	中間	期末	年間
平成21年度	**18円**	**18円**	**36円**
平成22年度（予定）	20円	20円	40円

第3次中期経営計画（2010年度～2014年度）

シオノギは、製薬企業をとりまく厳しい競争環境の中で将来に向けた長期的な成長を成し遂げるため、第1次中期経営計画（2000年度～2004年度）では医療用医薬品事業へリソースを集中するための基盤整備を図り、第2次中期経営計画（2005年度～2009年度）においては、研究開発の充実とグローバル化への橋頭堡を築きました。そして、2010年度からは新たに5ヵ年の第3次中期経営計画をスタートさせ、中長期的な飛躍と成長を目指すため、グローバルな活動を展開していきます。

スローガン　～*SONG for the Real Growth*～

- ***S**peed* ― 迅速な判断と実行
- ***O**pen Mind* ― 自由な発想と柔軟な心
- ***N**ever-Failing Passion* ― 尽きることのない情熱
- ***G**lobal Perspective* ― 高い視点と広い視野

基本戦略1：豊富な新薬群を軸とする着実な成長

国内においては、“最重要戦略品目”と位置づけた「クレストール」「イルベタン」「サインバルタ」の3品目に、「ピレスパ」「ディフェリン」「フィニバックス」「オキシコンチン/オキノーム」「ラピアクタ」を加えた“戦略品目”8品目合計の売上高比率70％以上を目標とし、新製品中心の販売構成へとシフトすることにより、着実な拡大を図ります。

また、海外における既発売品ならびに開発品の育成により、連結海外売上高比率の拡大を目指します。

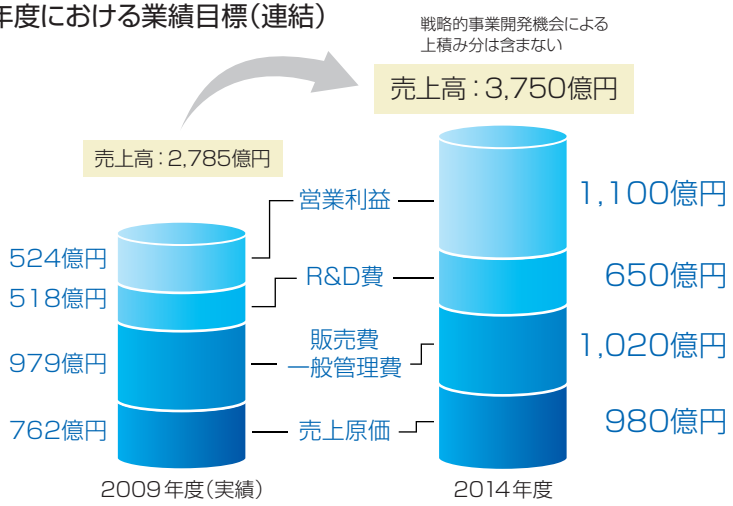
基本戦略2：新たな成長ドライバーへの投資

抗HIV薬や肥満症治療薬を始めとした開発ポートフォリオ管理を徹底すると共に、研究段階における世界トップクラスの生産性、グローバル開発のスピードアップを目指します。第3次中期経営計画の数値目標は、5品目以上の後期開発（フェーズⅡb以降）をグローバルに展開すること、そして国内創製4品目の海外承認申請および1品目以上の承認を達成することです。

基本戦略3：継続して闘う疾患領域

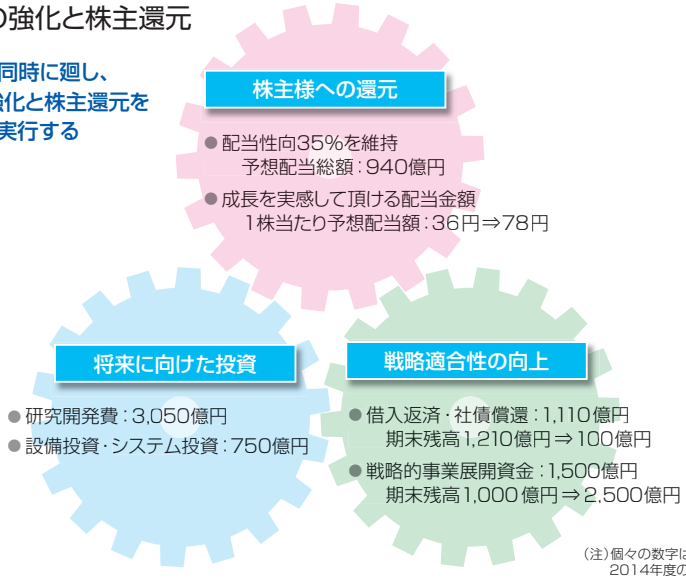
重点疾患領域である「代謝性疾患」「感染症」「疼痛」領域において、販売力を集中し製品を最大化することで医療に貢献します。同時に、領域内の変化に対応するために、「肥満・糖尿病」と「ウイルス感染症」を第3次中期経営計画における研究開発重点疾患とし、研究開発力を集中することでパイプラインの構築と迅速な上市を目指します。さらに、次世代の新たな波に備えるために、次の波を的確に読み創薬の種を探索し、将来への投資を行います。このように、継続性、柔軟性、先見性で疾患の波の重層構造に対応し、シオノギの基本方針「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」ことを具現化してまいります。

◆2014年度における業績目標（連結）



◆経営基盤の強化と株主還元

**3つの歯車を同時に廻し、
経営基盤の強化と株主還元を
バランス良く実行する**



（注）個々の数字は、5ヵ年の合計または
2014年度の目標数値です。

誰もが成長を実感できる新たなステージを目指し、グローバル品の複数上市と大いなる成長の実現に向け、グループ一丸となってまい進してまいります。

シオノギはQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上に取り組んでいます

【PC版】http://www.nikibi-hifuka.jp/

【携帯版】http://www.nikibi-hifuka.jp/m/

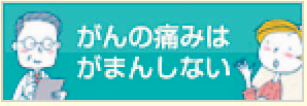
■皮膚科でのニキビ治療を支援 ～ニキビは皮フ科へ～

尋常性ざ瘡、いわゆる「ニキビ」は、10～20歳代を中心に多くの方が経験される皮膚疾患で、主に顔面に現れ痕が残ることがあるなど、患者さまのQOLに大きな影響を及ぼすにもかかわらず、医療機関を受診される患者さまは多くありません。

こうした背景を踏まえ、シオノギは、ニキビに罹患した患者さまへ正しい情報を伝え、積極的に皮膚科医による治療を受けていただくことにより、ニキビで悩んでおられる患者さまの笑顔を取り戻しQOLを向上していただくための啓発活動に取り組んでいます。

2010年より5月21日を「ニキビの日」*として日本記念日協会に登録しました。あわせて、同日よりタレントの柳原可奈子さんを起用したTV-CMを開始するなど、様々な形で明るくポジティブな啓発活動を展開しています。

*「（5（いつも）2（にきびは）1（ひふかへ））」＝“いつもニキビは皮膚科へ”の語呂あわせです。



http://www.shionogi.co.jp/itami/index.html

■「がんの痛み治療」の普及活動 ～がんの痛みはがまんしない～

当社では、「がんの痛み治療」の普及活動を開始して4年目を迎えますが、今年度も引き続き普及のための取り組みを行なってまいります。

具体的な活動の1つとして、テレビや新聞などを媒体とする啓発広告で、自らがんを克服された藤村俊二さんから「がんの痛みはがまんしない」というメッセージを広く伝えていきます。

さらに製薬企業として、「がんの痛み治療」の普及を目的とする啓発企業団体「がん性疼痛緩和推進コンソーシアム」への加入および活動や、厚生労働省が推進する啓発事業「オレンジバルーン・プロジェクト」の応援などを通じて、社会全体が「がんの痛み治療」に関心を持つきっかけ作りや、がん患者さまのQOL向上に貢献する一翼を担う活動を続けています。

毎日つづく元気のために
～生活習慣の改善をサポート～

OTC医薬品事業では、生活習慣の改善をサポートする製品を適正な情報とともにお届けすることにより、お客様の毎日の健康づくりを応援しています。

昨年12月に血清高コレステロール改善薬「ローカスタ®」を発売いたしました。適度な運動とバランスのよい食事とあわせ、適切なコレステロールの管理をご提案しています。

また、テレビCMを展開する“ポポンシリーズ”では、現代生活に不足しがちなビタミンとミネラルをバランスよく配合した総合ビタミン剤「ポポン®S」、毎日の疲れをケアする「ポポン®Bフレッシュ」に加えて、今年3月には、「がんばった目にダブルケア!」のキャッチコピーで、「ポポン®ピュメリ目薬R」、「ポポン®ピュメリ錠VB」（ビタミンB_1主薬製剤）を発売いたしました。パソコン作業などによる目の疲れには「ポポン®ピュメリ目薬R」、肩こり等を伴う眼精疲労には「ポポン®ピュメリ錠VB」をお勧めしています。

「ミュージックフェア」が放送2300回を迎えました

シオノギ提供の音楽番組「ミュージックフェア」（フジテレビ系列　毎週土曜日18:00～18:30放送）が1964年8月のスタートから、今年3月で放送2300回を迎えました。これを記念して2月にウェルシティ大阪厚生年金会館において記念公開録画が行われ、番組出演歴代1位の森山良子さん、2位のさだまさしさんをはじめ、番組にゆかりのあるアーティストの方々にご出演いただきました。

今後も、「最高の音響効果、照明、セット、そしてすばらしい雰囲気の中で、一流の歌手による歌をじっくり聴いていただく」ことをモットーに、高品質の音楽番組を提供してまいります。

株式の概況 （平成22年3月31日現在）

◆株式の状況

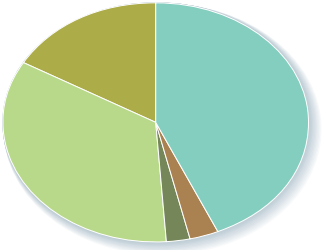
- 発行可能株式総数　1,000,000,000株
- 発行済株式の総数　351,136,165株
- 株主数　29,439名
- 株主1人当たり平均持株数　11,927株
- 大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	21,609	6.45
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	20,261	6.04
3 住友生命保険相互会社	18,604	5.55
4 日本生命保険相互会社	13,138	3.92
5 JP MORGAN CHASE BANK 385147	10,126	3.02
6 JP MORGAN CHASE BANK 380055	10,109	3.01
7 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口）	9,485	2.83
8 日本興亜損害保険株式会社	7,551	2.25
9 STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	6,657	1.98
10 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	6,596	1.96

（注）1. 当社は自己株式16,231,245株を保有しておりますが、上記大株主（上位10名）の中には含めておりません。
2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を控除した334,904,920株に対する割合として算出しております。

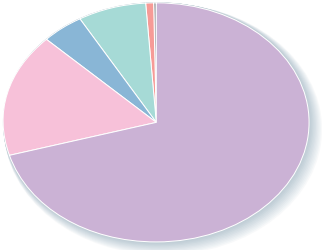
◆株式の分布状況

＜ 所有者別株式分布 ＞



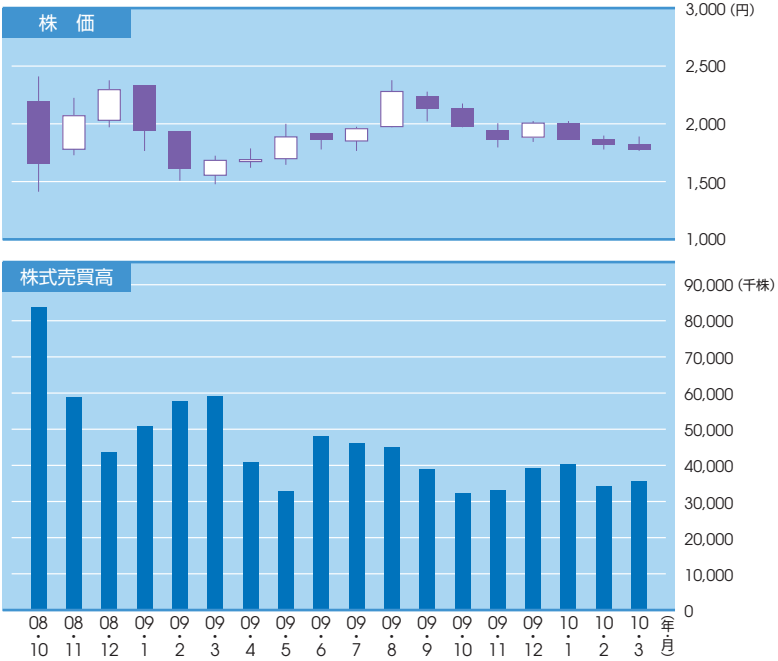
金融機関	43.51%
証券会社	3.06%
その他の法人	2.45%
外国法人等	34.35%
個人その他	16.63%

＜ 所有数別株式分布 ＞



1,000千株以上	70.58%
100千株以上	16.78%
10千株以上	4.57%
1千株以上	7.21%
100株以上	0.83%
100株未満	0.03%

◆株価および株式売買高の推移



概　要

会社の概要

商　　号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO., LTD.)
創　　業	1878年(明治11年)3月17日
会 社 設 立	1919年(大正8年)6月5日
決　算　期	3月31日
事 業 内 容	医薬品、診断薬などの製造･販売
資　本　金	212億79百万円
従業員数(連結)	5,887名(平成22年3月31日現在)

http://www.shionogi.co.jp/

役員

取締役

代表取締役会長	塩野　元三
代表取締役社長	手代木　功
取締役	戸梶　幸夫
取締役	三野　泰宏
社外取締役	野村　明雄
社外取締役	茂木　鉄平

監査役

常勤監査役	大谷　光昭
常勤監査役	小松　聰司
社外監査役	永田　武全
社外監査役	横山　進一

執行役員

専務執行役員	戸梶　幸夫
専務執行役員	三野　泰宏
常務執行役員	福田　卓雄
常務執行役員	久米　龍一
常務執行役員	澤田　拓子
執行役員	近藤　裕郷
執行役員	五島　正光
執行役員	加茂谷　佳明
執行役員	花崎　浩二

事業所と主な子会社

本　社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
Tel 06-6202-2161

支　店

東京支店
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号
シオノギ渋谷ビル
Tel 03-3406-8111

名古屋支店
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目9番地
スカイオアシス栄
Tel 052-957-8271

福岡支店
〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目1番35号
新KBCビル
Tel 092-737-7750

札幌支店
〒064-0807 札幌市中央区南七条西1丁目13番地
第3弘安ビル
Tel 011-530-0360

研究所

中央研究所
〒553-0002 大阪市福島区鷺洲5丁目12番4号
Tel 06-6458-5861

新薬研究所
〒561-0825 豊中市二葉町3丁目1番1号
Tel 06-6331-8081

医科学研究所
〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6382-2612

油日ラボラトリーズ
〒520-3423 甲賀市甲賀町五反田1405番地
Tel 0748-88-3281

工　場

摂津工場
〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6381-7341

金ケ崎工場
〒029-4503 岩手県胆沢郡金ケ崎町西根森山7番地
Tel 0197-44-5121

事業所

杭瀬事業所
〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号
Tel 06-6401-1221

子会社

日亜薬品工業株式会社
〒771-0132 徳島市川内町平石夷野224番地20
Tel 088-665-2312

シオノギ分析センター株式会社
〒566-0022 大阪府摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6381-7271

シオノギ総合サービス株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町4丁目7番6号
シオノギ道修町ビル
Tel 06-6227-0815

海　外

Shionogi & Co., Ltd.
Taipei Office
4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road
Taipei 10457, Taiwan
Tel +886-2-2551-6336

Shionogi & Co., Ltd.
Shanghai Office
Far East International Plaza 3F, 306A
No. 319 Xian Xia Road
Shanghai 200051
People's Republic of China
Tel +86-21-6235-1311

Taiwan Shionogi & Co., Ltd.
4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road
Taipei 10457, Taiwan
Tel +886-2-2551-6336

Shionogi USA, Inc.
100 Campus Drive, Florham Park
NJ 07932, U.S.A.
Tel +1-973-966-6900

Shionogi Pharma, Inc.
5 Concourse Parkway Suite1800
Atlanta, GA 30328, U.S.A.
Tel +1-800-461-3696

株主メモ

◇事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
◇定時株主総会	6月
◇基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当金　3月31日 中間配当金　9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
◇単元株式数	100株
◇公告掲載方法	電子公告　当社インターネットホームページ（http://www.shionogi.co.jp/）に掲載しています。
◇上場証券取引所	東京・大阪
◇証券コード	4507
◇株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	住友信託銀行株式会社　（大阪市中央区北浜四丁目5番33号）
◇株主名簿管理人事務取扱場所	住友信託銀行株式会社　証券代行部　（大阪市中央区北浜四丁目5番33号）
（郵便物送付先）	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-176-417
（インターネットホームページ）	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

≪株式事務手続のご案内≫

◆ 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等のお届出およびご照会先は、以下のとおりとなっております。

「証券保管振替制度」をご利用の株主様	株主様が口座を開設されている証券会社等
「証券保管振替制度」をご利用でない株主様	当社が「特別口座」を開設した住友信託銀行 （ご照会は上記の電話照会先にお願いいたします。）

≪単元未満株式の買取手数料の無料化について≫

ご負担いただいておりました手数料を平成21年1月5日（月）以降のご請求から無料（証券会社等の手数料を除く。）といたしておりますので、単元未満株式の買取制度のご利用をご検討くださいますよう ご案内申しあげます。
お手続きの詳細は、上記「株主名簿管理人」または「株主様が口座を開設されている証券会社」までお問合せください。

FSC ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-001508
© 1996 Forest Stewardship Council